

「プレゼン」というもの3

コロナ禍は収束の兆しが見えてきましたが、果たして社会はどう変わっていくでしょう。もとの戻るのか、新たな状態に移行するのか。私は2017年からプレゼンイベントを続けていますが、今年は新時代への変化をテーマとしました。「プレゼン」とは何かを考えて、昨年続く第3弾です。

●コロナ禍は未曾有か？

2020年に入って早々、未曾有のコロナ禍と言われるような社会情勢に陥りました。果たして本当にイマダカツテアラズだったのでしょうか。歴史はさまざまなことを繰り返しています。残念ながら戦争もしかり、そして感染症の流行もしかり。大正の頃、いわゆるスペイン風邪で多くの方々が亡くなられました。当時の新聞写真を振り返ると、街の風景はマスクの人たちでいっぱい、今とそっくりです。決して初めてではない新型ウイルスの流行！3年前、小松左京の復活の日を改めて読んで鳥肌を立てたものですが、私たち医療者も、一般市民の皆さんも、不透明な未来に不安を感じています。

●未来予想図

私と同年代の方はご存知でしょうが、よく知られた歌詞に「現在・過去・未来」という一節があって、この語順がとても良いと思うのです。まず現在がある、そして過去を振り返ることで、未来につながっていく、そう解釈しています。その未来というのは、現在より良くなるものなのか？なんだか元に戻ってしまうのか？本当にダーウィンの言葉が分かりませんが、生き残るのは変われるものと言われていきます。進化の過程はそうでしょうが、私たちの人生ではどうあるべきか考えさせられます。人は変化に恐れを感じ、現状維持で安心しますが、素晴らしい未来予想図を見聞すれば、きっと変わりたいと思えるはずです。

●コミュニケーションの変化

このコロナ禍を経て、コミュニケーションの方法論が変わりました。直接会わなくても、会議や打ち合わせ、講演会や学会までも、オンラインが盛んです。人間の変化だけでなく、情報技術も新しくなっています。今年に入って、高橋幸宏氏、坂本龍一氏が相次いで亡くなってしまいました。YMOの音楽がなんと革新的に思えたか。しかしあの頃、誰もが好むものでもなくて、電子音に不快感をあらわにされることもありました。人は新しいものに触れた時、どう反応するか差がとても大きいと感じます。例えば、新製品をどう使うか、新入職者とどう付き合うか、そして新たな病魔とどう闘うか、大なり小なり人生の分かれ道にもなり得ます。

●プレゼンの魅力

なぜ私がプレゼンイベントを行うか。その心理はうまく説明できませんが、日常を発展させた何か、日常を変えてくれる何か、より良い新時代につながる未来予想図、それらを聴くことで皆に変わってもらいたいのです。今年は5月14日、「MEDぐんま 2023」を開催いたします。群馬会館でハイブリット形式、現地に来られなくてもライブ配信があります。生きることに繋がるテーマとして、医療のこと、町のこと、生活のことなど、幅広いプレゼンターが登壇されますので、ぜひご参加ください。

<https://medjapan.org/medgunma2023>

●桜を見て

この3年間、当院でもさまざまな行事が中止されました。私の関わるものでは、市民の皆さんにお集まりいただくハッピー健康相談室があります。身近で話を聞くことは、モチベーションアップにつながったと思っています。この原稿を執筆中、外は葉桜になりつつありますが、芭蕉の言うようにさまざまのことを思い出しますね。過去があって今がある、今があって未来がある。新年度を迎えて、新時代に向けた新たな一歩を踏み出していきましょう。

【副院長兼皮膚科診療部長 岡田 克之】

